

6. 「街が輝く」

②魅力ある都市基盤の整備

前期基本計画の取組状況

(1) 中心市街地・周辺市街地の計画的な整備

平成 22 年 12 月に景観行政団体に移行し、豊かな自然環境と歴史的景観を保全するとともに、地域の環境と調和した街づくりを進めています。

小松島みなと交流センター「kocolo」周辺については、駐車場外周部のフェンスの設置や敷地内の整備を行うとともに、「海鮮朝市」や「こまつしまうまいもん祭り」などのイベントを通じて人が集いやすい環境の整備に努めています。

(2) 交流基盤の整備

四国横断自動車道については、各地区において用地買収や工事などを進めています。立江トンネル全長約 954m のうち、田野地区天王谷までの約 518 m 区間の掘削工事が完了し、さらにそれに続く天王谷橋全長約 42m の工事が完了しました。設計協議については、平成 24 年度末で市内に 7 つある地元対策協議会の全地区で設計協議が合意しました。市では、設計協議での合意に基づき、側道、周辺道路、排水路などの周辺整備を進めています。

みなと交流センター南側ウッドデッキでは、随時イベントなどを実施しにぎわいと交流促進が図られています。また、徳島小松島港赤石地区コンテナターミナルの利用促進については、県や港湾荷役業者とともにポートセールスを実施するとともに、東京や大阪への海運業者へのセールスも随時実施しました。



徳島小松島港のガントリークレーン

(3) 高度情報化への対応

地デジ対策として、アナログ放送停波までに滞りなく地上デジタル放送の視聴を可能とするために、共聴施設を改修・新設することにより受信環境を整え、市内 3 共聴組合 147 世帯の難視世帯の解消に努めました。

ホームページを活用してイベント情報、農林水産物をはじめとする特産品などの情報発信を行い、市のイメージアップや産業の振興に努めました。

現況と課題

中心市街地

小松島市の中心市街地は、居住者の高齢化と住宅の老朽化が進んでいます。小松島市では、中心市街地の再生を目的として、旧国鉄跡地の「跡地利用計画」を昭和61年に策定し、平成元年から平成5年の間に、国や県とも連携しながら、文化・行政ゾーンとして再開発を行いました。この開発により建設された「たぬき広場」や「SL記念広場」などを備えたステーションパーク周辺は、現在、市立図書館を兼ねた生涯学習センターや小松島地方合同庁舎、金長だぬき郵便局、総合コミュニティーセンター「トレピ」さらには保健センター・ミニカホールなどの公共・文化施設と、自転車・歩行者専用道路、しおかぜ公園といった公園施設の整備が完了しています。

また、最近では、徳島赤十字病院の移転を機に、民間主導による複合ビルや商業施設の建設などが行われました。

平成23年度から県は、本市の中心市街地と国道55号線（前原町）を連結する延長約600mの県道小松島港線（バイパス工事）の用地買収に着手し、一部については取得に至っています。この県道は、四国横断自動車道の小松島IC（インターチェンジ）へアクセスする大変重要な路線です。

中心市街地につながる本港地区については、遊休化したフェリーターミナルを生かした小松島みなと交流センター「kocolo」や、平成20年に県の公園整備事業により、県と市が共同で整備したウッドデッキなどの施設を中心として、イベントや常設の特産品販売所を通じ、賑わい創出事業が行われています。

今後も人が集まる街として魅力を高める整備が求められるとともに、既成市街地における生活道路・下水道の整備などが課題です。

高速道路・主要道路

「四国8の字ネットワーク」の大部分を占める四国横断自動車道（高速道路）のうち、阿南一小松島間は平成16年1月に、小松島一徳島東間は平成18年2月に、新直轄方式²⁹で整備されることが決定されました。

小松島市内においては、7つの地区対策協議会が設立され、道路本体構造と、道路建設に伴う周辺対策事業について調整する、いわゆる「設計協議」が各地区で行われました。その結果、平成20年9月に新居見、田浦、前原地区、平成21年1月に田野地区、平成23年8月に立江・櫛渕地区、平成24年8月に江田、中田地区において調印を終えました。

²⁹新直轄方式　　高速自動車国道等の建設等において、国と地方自治体が資金協力して建設する方式のことです。完成後は無料開放となります。

四国横断自動車道の阿南～徳島東間は、「四国8の字ネットワーク」の空白地帯に位置する高規格幹線道路の一部であり、四国東南部の発展に重要な役割を果たすものと期待されています。

また、小松島市では主要道路が少なく、このことは、渋滞損失時間による経済活動の阻害、交通事故の増加、排気ガス等による沿道環境の悪化をもたらすほか、緊急輸送や災害時における避難や物資輸送の妨げとなるため、防災面での課題となっています。



四国横断自動車道設計協議調印式

高度情報化

近年の情報通信技術の発展は、めざましいものがあります。インターネットの普及により、インターネットショッピング、インターネットバンキング、Eメールは、安価に容易に利用できるようになりました。パソコンの個人所有の普及で、「一家に一台」から「一人一台」という状況になりつつあります。さらに、携帯電話は、電話よりもインターネットに接続された端末機器としてみんなが利用するようになり、モバイルコンピューティング³⁰環境が整いつつあります。

その一方で、高齢者や経済的弱者など、コンピュータの利用が困難な人たちへの情報伝達が困難になってくる事例、いわゆるデジタルデバイドも見られるようになりました。

また、平成23年7月にアナログテレビ放送が終了し、地上デジタルテレビ放送に移行しています。

今後は、こうした情報通信技術の有効な利活用とデジタルデバイド³¹の解消に向けた対策を検討していく必要があります。

³⁰ モバイルコンピューティング 携帯型のコンピュータと携帯電話などを組み合わせ、場所を限定せずにネットワークにアクセスすること、またはその環境のことを指します。

³¹ デジタルデバイド 年齢や学歴、所得などの理由により、パソコンやインターネットといった情報技術(IT)を使いこなせる人と使いこなせない人との間に生じる、待遇や貧富、機会などの格差のことです。

基本方針

中心市街地の計画的な整備

「市は、市の顔となるにぎわいと活気のある中心市街地となるよう着実な整備を推進し、美しい街並み景観づくりを進めます。中心市街地活性化のための組織づくり、人づくりを積極的に支援します。」

中心市街地では、定住人口の増加を図るため、充実した医療・福祉施設、水辺や緑豊かな都市環境、商業施設や駅との近接性、利便性を生かし、若者からお年寄りまですべてのライフステージにおいて、人々が安心して住めるまちとして都市機能を強化します。

市の徒歩圏内には主な行政・文化施設と自然空間、歴史的資源があることから、イベントなどを通じて、市外からも人が集う街として、中心市街地の魅力を高め、これらの施設、歴史的資源等が有機的に結ばれることで、「歩いて楽しいこまつしま」として、魅力のある都市景観の形成をめざします。また、活性化策の担い手、実行母体となる組織づくり、人づくりを推進します。

交流基盤の整備

「四国横断自動車道の早期完成に向け国や県と一緒に事業を推進します。主要道路の整備や公共交通機関の整備を国や県、事業主体とともに推進します。」

四国横断自動車道・阿南一徳島東間の早期完成を図り、四国東南部における主要都市間の移動時間を短縮するとともに、一般国道55号線などの主要幹線道路の代替路として機能することで、慢性的な渋滞を解消し、時間損失が減少します。また、重篤患者の搬送など三次医療施設への円滑な救急輸送を実現します。災害時の円滑な交通の維持や津波発生時には防波堤として機能することで、被害軽減が期待されます。さらには、関西地方や四国他県からの所要時間を短縮し、農・水産品の出荷や企業取引、潜在観光需要における広域交流を促進することにより、県内はもとより、「近畿圏へも近いこまつしま」をめざします。

主要道路については、慢性的な渋滞の解消及び災害時の避難道路や復興道路の観点から、管理者である国や県などと連携し、都市計画道路を中心とした道路網の整備を推進します。

高度情報化への対応

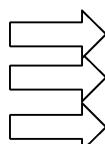
「インターネットによる市からの情報発信、市民の皆さんからの情報収集を進め、市民の皆さんとの情報共有に基づくまちづくりを推進します。市民サービスの向上、産業活動の活性化、災害時の情報提供を向上させます。」

生活に必要な情報を自由に活用できるよう小学校から積極的に情報教育を行います。行政情報の発信や収集についても時間や場所に制限されないインターネットの活用を積極的に行います。また、利用しやすい情報通信ネットワークの整備に努めます。

さらに、情報教育を行い高度情報化社会に対応した人材育成を行います。

施 策 体 系

●魅力ある都市基盤の整備



- 中心市街地・周辺市街地の計画的な整備
- 交流基盤の整備
- 高度情報化への対応

主 な 取 組

(1) 中心市街地・周辺市街地の計画的な整備

- 既に整備されている掘割りやステーションパーク（自歩道）などの景観を維持し、商業者や市民の皆さんによる、美しい街並みや建築・看板デザインといったまちづくりの取り組みと各種イベントの支援を行うことで、中心市街地へ人の流れを呼び戻し、活性化を図ります。
- 中心市街地につながる徳島小松島港本港地区については、小松島みなと交流センター「kocolo」を中心として、県など関係機関と協力しながら緑地などの整備を促進し、人が集いやすいまちづくりを進めます。
- 金磯地区については、「金磯地区まちづくり計画」に基づき、昭和 58 年度より地区整備事業を開始している幹線道路や都市下水路などの整備を促進するとともに、「金磯地区整備基金」を活用しながら区画道路・公園などの整備を図ります。

(2) 交流基盤の整備

- 四国横断自動車道の整備は、市の活性化を図る重要な事業であるため、市は早期完成に向け国及び県と一体となり事業を推進します。
- 県道小松島港線（バイパス工事）については、四国横断自動車道の進捗に併せた整備が必要不可欠であることから、県や関係機関と連携し、地元調整や要望活動を行ってきており、今後も継続していくことで、早期完成をめざします。
- 都市計画道路などの主要道路の整備推進により、交通の円滑化を図るとともに、救急輸送や災害時の避難路・輸送路を確保します。
- 徳島小松島港については、国・県が進める事業に対し要望や協力を行います。本港地区については、人との交流の場としてにぎわいを復活させるよう、また、赤石地区については利用促進のため未整備埠頭や緑地部分の早期整備を推進するとともに、コンテナなど貨物取扱量が増えるようポートセールスを行います。
- 路線バスや鉄道などの公共交通を運行する事業者に対し、支援や要請を行い、市民の皆さんのが利用しやすい公共交通網の維持・確保を行います。

(3) 高度情報化への対応

- 双方向性というインターネットの特性を活かした地域情報発信を適切に促進し、市のイメージアップや産業の振興を図ります。また、迅速かつ正確な災害情報の提供に努めます。
- 高度情報化社会に対応した人材を育成するため、小中学校における情報教育の充実を図ります。